

名 称	プラズマ発光分光分析装置	
概 要	<p>元素分析の装置です。液体試料を高温のプラズマ中に噴霧させ、分解された試料中の原子の発光を調べることにより、試料に含まれている元素の種類を特定します。また、発光の強度から、各元素の濃度を定量することができます。水溶液あるいは有機溶媒中の無機物、金属分の定量に適しています。固体試料も、溶解等の前処理によって測定することが可能です。</p>	
特徴・諸元	<p>光学系の制御、データの収集、含有される元素の定量のために必要な操作はパーソナルコンピュータによって行われます。定量に用いた検量線のデータや測定結果は、紙出力のほか、電子ファイルとして保存し、後で見直すことが可能です。</p> <p>◆ 主 要 諸 元</p>	
	<p>〔プラズマの発生方法〕</p> <p>〔光学系〕</p> <p>〔測定可能な元素〕</p> <p>〔必要な試料の量〕</p> <p>〔定量下限〕</p>	<p>ICP（高周波誘導結合型）</p> <p>多元素同時検出</p> <p>約90元素（原理上測定できない主な元素：水素、炭素、窒素、酸素、フッ素、希ガス元素）</p> <p>数cc（液体の場合）</p> <p>数ppm（元素によっては、ppb単位まで定量可能）</p>
		
担当部署	材料技術研究部 潤滑材料	